

公開用シナリオ_ワークシート作業用教材（火山編）

P.	タイトル	説明概要
1	サムネイル	<p>火山災害から命を守る ワークシート編</p> <p>この教材では、ワークシートを使って手を動かしながら、あなた自身が火山噴火によるリスクを確認し、火山災害から命を守るためにどのような行動をとればよいかを考えていきます。</p>
2	ワークの準備	<p>まずはワークの準備です。</p> <p>一つ目は「ワークシート」です。この動画教材の枠外に関連リンクを掲載していますので、記入できるよう紙に印刷して机の上に置いてください。筆記用具も準備してください。</p> <p>二つ目は今回のワークを行う架空のA火山の「火山ハザードマップ・火山防災マップ」です。ワークシートと同じ場所に関連リンクを掲載していますので、画面に表示するか、紙に印刷して手元に置いておいてください。</p> <p>この動画では、2つの場面を用意しています。自分だったらどうするかを考えて、動画に沿って、ワークシートに記入していきましょう。</p> <p>想定する場面は、①火口周辺に近づく登山者の場合と、②火山のふもとにお住まいの方です。</p> <p>それでは、まず想定①の火口周辺に近づく登山者の場合についてワークを始めましょう。</p>
3	<p>想定① 火口周辺に近づく 登山者の場合</p>	<p>想定① 火口周辺に近づく登山者の場合</p>
4	<p>事前の確認 【火山ハザードマ ップ】</p>	<p>あなたは、A火山に今週末の8月26日に、登山に行く予定を立てました。</p> <p>山の南東側の登山道から山頂へ登頂し、東側の登山道から下山する予定です。</p> <p>登山の計画を立てる際に何に注意する必要があるでしょうか。登山をする前には、A火山が活火山であることを知っておくことと、もし噴火した場合にどのような災害がどこに影響する可能性がある</p>

公開用シナリオ_ワークシート作業用教材（火山編）

		<p>か知っておくことが大切です。</p> <p>火山ハザードマップや火山防災マップをみると、噴火した場合にどのような災害リスクがあるか確認することができます。</p> <p>それでは、確認してみましょう。</p> <p>登山をする火山についてインターネットで該当する山の「火山ハザードマップ」や「火山防災マップ」と検索して、都道府県や市町村のホームページに掲載されているものを確認します。</p> <p>ここでは、A火山という架空の火山で演習しますので、画面のハザードマップを確認してください。</p> <p>それでは、もし噴火した場合に、登山中に影響を受ける可能性がある現象をワークシートに記入しましょう。</p> <p>また、ハザードマップには記載されていない場合でも、他に注意が必要な現象があれば、記入しましょう。</p>
6	<p>事前の確認</p> <p>【火山防災マップ】</p>	<p>火山ハザードマップに噴火警戒レベルに応じた警戒が必要な範囲、避難場所や防災上の注意事項を記載したものが、火山防災マップです。</p> <p>噴火警戒レベルがいくつになったら、どこまでが危険な範囲なのかを知ることができます。</p> <p>もし、登山中に噴火警戒レベルが引き上げられた時のために、あらかじめ確認しておくことが大切です。</p> <p>A火山の火山防災マップを見ると、噴火警戒レベル1では、特段の規制はありません。活火山であることに留意しながら、登山することができます。</p> <p>噴火警戒レベル2では、想定火口から1kmの範囲が危険、噴火警戒レベル3では、想定火口から3kmの範囲が危険、レベル4、5では赤線の火砕流の可能性のある範囲が危険な地域になります。また、山に積雪がある時期で融雪型火山泥流の恐れのある場合は赤色の破線で囲まれた場所も危険な地域になります。</p> <p>登山前に、現在の噴火警戒レベルや火山の状況について確認しましょう。</p>
7	<p>事前の確認</p> <p>【火山情報】</p>	<p>気象庁 HP には、火山登山者向けの情報提供ページがあり、現在の火山活動の状況や噴火警報・噴火予報の状況がわかるので、あらか</p>

公開用シナリオ_ワークシート作業用教材（火山編）

		<p>じめ確認しておきましょう。</p> <p>また、噴火警戒レベルの「警戒が必要な範囲」に入っていないなくても市町村や登山道の管理者において規制がされている可能性もあります。市町村などのHPを確認しておくことも重要です。</p> <p>今回は、噴火警戒レベルが1で、特段の規制はない想定としますので、「火山活動の高まりなし 規制なし」の矢印に進みましょう。</p> <p>噴火警報が発表されていて「警戒が必要な範囲」に登山道が入っていたり、規制されていたりする場合は、危険な地域に入らないように登山計画を見直し、場合によっては登山を中止しましょう。</p>
9	<p>登山中</p> <p>【火山の状況に関する解説情報（臨時）】</p>	<p>登山当日になりました。当日は天候もよく、計画通り、南東側の登山道を登っていきます。</p> <p>登山中にa地点に差し掛かったとき、臨時の「火山の状況に関する解説情報」が発表されたことを防災無線で知りました。</p> <p>地震活動が活発化していて、今後の火山活動に注意するように呼びかけられています。</p> <p>臨時の火山の状況に関する解説情報が発表されたということは、噴火警戒レベルが引き上げられる程ではないですが、火山活動の高まりのリスクがある状況です。</p> <p>今回の場合、登山の規制等はされていません。</p> <p>この場合、あなたはどのように対応しますか。ワークシートに記入しましょう。</p>
11	<p>登山中</p> <p>【噴火警戒レベル2】</p>	<p>火山の状況に注意しながら、山頂を目指して登山を続けていきます。南東側の登山道と東側の登山道の分岐地点であるb地点に到着した時、噴火警戒レベル2の噴火警報が発表されました。防災無線やスマートフォンの緊急速報メールでは、速やかに火口から1kmの範囲から退避するように呼びかけられています。</p> <p>今のところ、山頂方向を見ても噴火が発生している様子はありません。</p> <p>この場合、あなたはどのように対応しますか。ワークシートに記入しましょう。</p>
13	<p>登山中</p> <p>【噴火速報】</p>	<p>噴火警戒レベル2の発表を受けて、あなたは下山することにしました。下山中、a地点に戻ってきたとき、あなたはスマートフォンの</p>

公開用シナリオ_ワークシート作業用教材（火山編）

		<p>防災アプリで噴火速報を受信しました。</p> <p>後ろを振り返ると黒い噴煙が立ちのぼっています。山頂付近で噴火が発生したようです。</p> <p>直ちに身の安全を図る必要があります。あなたはどのように対応しますか。ワークシートに記入しましょう。</p>
15	<p>想定②</p> <p>火山のふもとにお住まいの方の場合</p>	<p>想定②</p> <p>火山のふもとにお住まいの方の場合</p>
16	<p>事前の確認</p> <p>【火山ハザードマップ】</p>	<p>あなたは、A 火山の麓の X 市 Y 地区に住んでいると想定します。地図に示した場所があなたの自宅のある場所です。</p> <p>火山周辺にお住まいの方は普段から、火山がもし噴火した場合に自宅にどのような災害リスクがあるか知っておくことが大切です。</p> <p>火山ハザードマップや火山防災マップをみると、噴火した場合にどのような災害リスクがあるか確認することができます。それでは、火山ハザードマップを確認してみましょう。</p> <p>ここでは、A 火山で演習しますので、画面のハザードマップを確認してください。</p> <p>それでは、もし A 火山が噴火した際に、自宅のある場所で影響を受ける可能性がある現象をワークシートに記入しましょう。</p> <p>また、ハザードマップには記載されていませんが、注意が必要な現象があれば、記入しましょう。</p>
18	<p>事前の確認</p> <p>【火山防災マップ】</p>	<p>次に、火山ハザードマップに噴火警戒レベルに応じた警戒が必要な範囲、避難場所や防災上の注意事項が記載された「火山防災マップ」も確認しましょう。</p> <p>A 火山の火山防災マップを見ると、噴火警戒レベル 1、2、3 では、自宅のある場所では、避難は必要ありません。しかし、噴火警戒レベル 4、5 では、自宅のある場所は警戒が必要な範囲に含まれています。噴火警戒レベル 4 は、高齢者等の要配慮者は避難、それ以外の方は避難の準備が必要です。噴火警戒レベル 5 では、全員避難が必要となります。</p> <p>火山防災マップには避難所の場所も記載されています。防災マップであらかじめ避難所までのルートも含めて確認しておきましょう。</p>

公開用シナリオ_ワークシート作業用教材（火山編）

19	火山活動が活発化 【噴火警戒レベル 3】	<p>3月のある日、A火山において、地震や地殻変動などの火山活動の高まりが観測されました。</p> <p>このことを受けて、気象庁から噴火警報が発表され、噴火警戒レベルが2から3に引き上げられました。</p> <p>防災無線で速やかに火口から3kmの範囲から退避するように呼びかけられています。</p> <p>この場合、火山の麓に住むあなたはどのように対応しますか。ワークシートに記入しましょう。</p>
21	噴火発生 【噴火警戒レベル 4】	<p>3日後、A火山で、噴火が発生し、小規模な火砕流が発生しました。火砕流の規模は小さく、現時点では、火口から2km以内に収まっていますが、今後、噴火の規模がさらに大きくなった場合は、麓の居住地域まで到達する可能性があります。そのため、気象庁から噴火警戒レベル4の噴火警報が発表されました。</p> <p>防災無線やスマートフォンの緊急速報メールで火砕流が予想されるX市Y地区において、高齢者等避難が発令され、高齢者等の要配慮者の避難が呼びかけられています。</p> <p>この場合、あなたはどのように対応しますか。ワークシートに記入しましょう。</p>
23	噴火発生 【噴火警戒レベル 5】	<p>その後、さらに火山活動の活発化を示すデータが観測されたため、噴火警戒レベル5の噴火警報が発表されました。</p> <p>防災無線やスマートフォンの緊急速報メールで、X市Y地区において避難指示が発令され、避難が呼びかけられています。</p> <p>この場合、あなたはどのように対応しますか。ワークシートに記入しましょう。</p> <p>また、避難に際して、どのようなことに気を付けたらよいかも記入しましょう。</p>
25	ワークシートの完成	<p>これで、ワークシートは完成です。大変おつかれさまでした。</p> <p>ワークをとおして、火山災害に備えて、あなたと大切な人の命を守る行動をイメージできましたか。</p> <p>このワークシートを記入することで、火口周辺と火山の麓にいる場合の2つのケースについて、火山活動や火山の防災情報に応じた対</p>

公開用シナリオ_ワークシート作業用教材（火山編）

		<p>応を考えることができました。</p> <p>また、ワークシートに記入した内容は、全員に共通の正解はありません。置かれた状況などによって、最適な行動が変わります。他の人とも共有して、気が付いていないことなども確認してみましょう。役に立つと思ったことがあれば、ぜひ取り入れてみてください。</p>
26	まとめ	<p>ワークで確認したように、火山災害から命を守るためには、あらかじめの準備や対応が大切です。</p> <p>火山のことを知っておく、火山の防災情報を確認する、避難の指示や噴火警報が発表されたら避難するなど危険な場所から離れることが大切ですので、改めて確認しておきましょう。</p> <p>また、今回は架空の火山の架空の想定でワークシートを記入しましたが、火山周辺にお住まいの方、火山周辺へ観光や登山で訪れる方は、自分自身の身近な火山のハザードマップや防災マップを確認して、「いざ」というときに迷わず命を守る行動がとれるよう、備えておきましょう。</p> <p>それでは。</p>